

農林水産省
令和6年度
世界の飲食料市場を見通すプロジェクト委託事業
報告書

2025年3月
三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社

三菱UFJリサーチ&コンサルティング

世界が進むチカラになる。



目次

1. 飲食料関連3部門の市場規模の推計
2. 関連推計(所得階層別の人口分布の将来予測)の実施

背景と目的

事業目的

- 人口減少と高齢化に伴い国内市場の縮小が確実視される中、農林水産業及び食品産業の生産基盤の維持・強化のためには、人口の増加や経済成長が見込まれる世界市場の獲得に向けて、農林水産物・食品の輸出や食品産業の海外展開が不可欠である。
- 現状、農林水産政策研究所が実施した2030年の世界の飲食料市場規模の推計(2015年が基準年)を参考にしながら、輸出促進施策の検討・推進に取り組んでいるが、今後も継続して輸出促進を図るためには、最近の実績をベースとしながら、2030年およびその先を見据えた、海外市場の今後の成長見通しを適切に把握することが必要となる。
- このため、各国・地域について、日本産食品のユーザーとなりうる層(主として富裕層)がどの程度拡大し、どのような品目が受容されるのかを適切に見通す必要がある。

事業内容

- そこで本事業では、農林水産政策研究所(2019)「世界の飲食料市場規模の推計」を参考とし、同推計手法を可能な限り踏襲しながら、2040年までの市場規模の推計を実施した。
- 所得の階層別人口の将来推計も実施した。
- 具体的には、以下の推計を実施した。
 1. 飲食料関連3部門(生鮮品、加工品、外食)の市場規模の推計 (市場規模としてOECD産業連関表を使用し、前回推計の手法・部門を踏襲した推計)
 2. 関連推計(所得の階層別人口の将来推計)

1. 飲食料関連3部門の市場規模の推計

推計の対象国・手法

推計の対象国

- 前回の推計では我が国の輸出状況、地域連携協定の締結状況を踏まえて、GDP上位20か国に、EU加盟国5か国、環太平洋諸国10か国・地域を加えた34か国・地域を選定していた(日本を除く)。
- 今回の推計では可能な限り対象国・地域を広げることとし、推計に必要なデータの利用可能性を精査した上で、**49か国・地域**について推計を実施した。

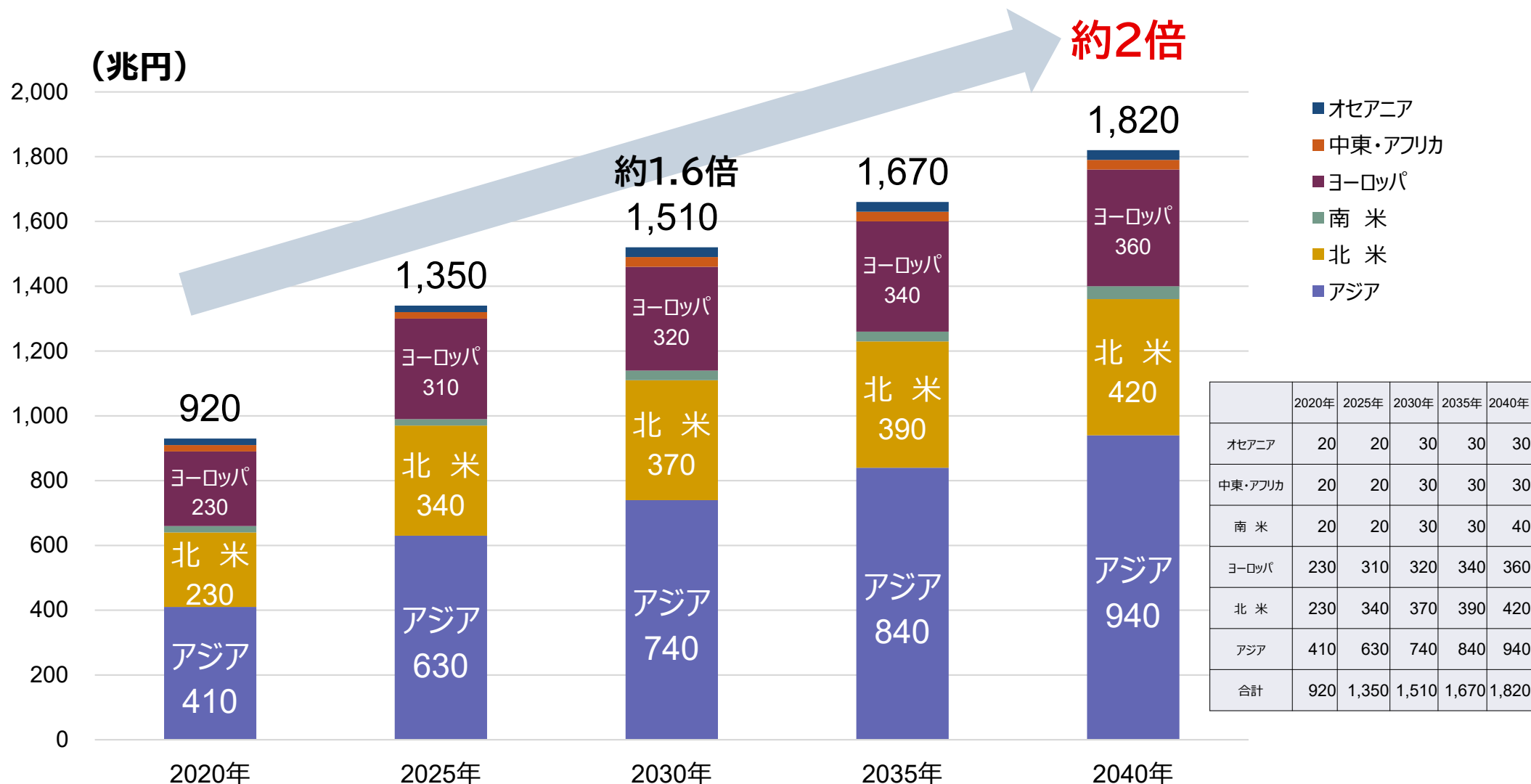
推計の手法

- 可能な限り国際機関の統計を利用。
 - ・ OECD産業連関表
 - ・ OECD Forecast
 - ・ IMF World Economic Outlook Database
 - ・ 国連人口統計 等
- 各国・地域の飲食料市場規模(生鮮品、加工品、外食)とGDP との相関関係※を回帰分析により計測。
 - ※1人当たりGDPの変化に対する1人当たり飲食料市場規模の変化の関係
- この相関関係と、各国のGDPと人口の見通しを用いて、2040年の飲食料市場規模を推計。

地域 (国・地域数)	国・地域名
アジア (12か国・地域)	中国、インド、韓国、トルコ、インドネシア、タイ、香港、フィリピン、シンガポール、マレーシア、ベトナム、台湾
北米 (3か国)	アメリカ、カナダ、メキシコ
南米 (5か国)	ブラジル、チリ、ペルー、アルゼンチン、コロンビア
ヨーロッパ (23か国)	ドイツ、イギリス、フランス、イタリア、ロシア、スペイン、オランダ、スイス、スウェーデン、ポーランド、ベルギー、オーストリア、デンマーク、ポルトガル、ノルウェー、フィンランド、ギリシャ、アイルランド、ブルガリア、ルーマニア、チェコ、ハンガリー、スロバキア
中東・アフリカ (4か国)	サウジアラビア、イスラエル、モロッコ、南アフリカ
オセアニア (2か国)	オーストラリア、ニュージーランド

推計結果(飲食料市場規模)

- 49か国・地域の飲食料市場の規模は、2020年の市場規模(約900兆円)から、2030年には約1.6倍(約1,500兆円)、2040年には約2倍(約1,800兆円)へと拡大。



推計結果 2030年（国別・部門別の飲食料市場規模の概要）

- **中国**は、大幅な経済成長が見込まれ、加工品を中心に269兆円から498兆円と200兆円以上拡大する。
- **インド**は、急激な人口増加と一人あたりGDPの成長に伴い、高い成長率が見込まれる。特に、加工品の市場が急速に成長する。
- **アメリカ**は、更なる経済成長による市場拡大が見込まれ、外食を中心に194兆円から307兆円と100兆円以上拡大する。

		市場規模（兆円）												GDP(百億USD)・人口（億人）・1人あたりGDP（百USD）								
		2020年				2030年				伸び（倍）				2020年			2030年			伸び（倍）		
		生鮮品	加工品	外食	計	生鮮品	加工品	外食	計	生鮮品	加工品	外食	計	GDP	人口	1人あたりGDP	GDP	人口	1人あたりGDP	GDP	人口	1人あたりGDP
アジア		204	148	59	411	349	282	112	743	1.7	1.9	1.9	1.8	2,019	3,512	57	2,892	3,668	79	1.4	1.0	1.4
	中国	133	100	35	269	228	197	72	498	1.7	2.0	2.1	1.9	1,319	1,412	93	1,973	1,403	141	1.5	1.0	1.5
	インド	32	9	2	43	60	25	6	90	1.9	2.7	2.4	2.1	183	1,341	14	304	1,462	21	1.7	1.1	1.5
	インドネシア	11	5	2	19	22	9	5	36	2.0	1.7	2.1	1.9	74	271	27	111	291	38	1.5	1.1	1.4
	その他アジア	28	33	19	80	40	51	29	119	1.4	1.5	1.5	1.5	443	488	91	504	513	98	1.1	1.1	1.1
北米		44	88	96	228	69	137	161	366	1.6	1.6	1.7	1.6	2,276	496	459	2,890	526	549	1.3	1.1	1.2
	アメリカ	34	72	88	194	52	105	149	307	1.5	1.5	1.7	1.6	2,023	332	610	2,535	347	730	1.3	1.0	1.2
	その他北米	10	16	7	33	16	31	11	59	1.6	1.9	1.5	1.8	253	164	154	354	179	198	1.4	1.1	1.3
南米		6	7	4	16	9	11	6	26	1.6	1.6	1.5	1.6	96	359	27	119	382	31	1.2	1.1	1.2
ヨーロッパ		63	103	63	230	78	147	99	324	1.2	1.4	1.6	1.4	1,962	661	297	2,256	665	339	1.2	1.0	1.1
中東・アフリカ		7	7	3	17	10	11	6	27	1.5	1.6	2.0	1.6	165	136	121	206	154	134	1.2	1.1	1.1
オセアニア		6	6	6	18	10	8	9	27	1.5	1.4	1.6	1.5	156	31	508	195	35	558	1.3	1.1	1.1

推計結果 2040年（国別・部門別の飲食料市場規模の概要）

- **中国**は、大幅な経済成長が見込まれ、加工品を中心に269兆円から607兆円と300兆円以上拡大する。
- **インド**は、急激な人口増加と一人あたりGDPの成長に伴い、高い成長率が見込まれる。特に、加工品の市場が急速に成長する。
- **アメリカ**は、更なる経済成長による市場拡大が見込まれ、外食を中心に194兆円から348兆円と150兆円以上拡大する。

		市場規模（兆円）												GDP(百億USD)・人口（億人）・1人あたりGDP（百USD）								
		2020年				2040年				伸び（倍）				2020年			2040年			伸び（倍）		
		生鮮品	加工品	外食	計	生鮮品	加工品	外食	計	生鮮品	加工品	外食	計	GDP	人口	1人あたりGDP	GDP	人口	1人あたりGDP	GDP	人口	1人あたりGDP
アジア		204	148	59	411	429	369	146	944	2.1	2.5	2.5	2.3	2,019	3,512	57	3,740	3,758	100	1.9	1.1	1.7
	中国	133	100	35	269	265	248	94	607	2.0	2.5	2.7	2.3	1,319	1,412	93	2,492	1,366	182	1.9	1.0	2.0
	インド	32	9	2	43	84	47	10	141	2.6	5.2	4.0	3.2	183	1,341	14	486	1,558	31	2.7	1.2	2.3
	インドネシア	11	5	2	19	32	11	8	51	2.9	2.3	3.1	2.8	74	271	27	162	307	53	2.2	1.1	1.9
	その他アジア	28	33	19	80	48	62	34	144	1.7	1.9	1.7	1.8	443	488	91	600	528	114	1.4	1.1	1.3
北米		44	88	96	228	76	154	189	419	1.7	1.7	2.0	1.8	2,276	496	459	3,399	551	617	1.5	1.1	1.3
	アメリカ	34	72	88	194	58	114	176	348	1.7	1.6	2.0	1.8	2,023	332	610	2,947	362	814	1.5	1.1	1.3
	その他北米	10	16	7	33	18	40	13	70	1.8	2.5	1.7	2.1	253	164	154	452	189	239	1.8	1.2	1.6
南米		6	7	4	16	11	14	9	35	1.9	2.2	2.7	2.2	96	359	27	154	396	39	1.6	1.1	1.5
ヨーロッパ		63	103	63	230	79	162	118	358	1.2	1.6	1.9	1.6	1,962	661	297	2,628	665	395	1.3	1.0	1.3
中東・アフリカ		7	7	3	17	11	13	9	33	1.7	1.8	2.9	2.0	165	136	121	258	168	154	1.6	1.2	1.3
オセアニア		6	6	6	18	11	9	11	31	1.7	1.6	2.0	1.8	156	31	508	253	39	648	1.6	1.3	1.3

2. 関連推計(所得階層別の人口分布の将来予測)の実施

推計方法

- 各国・地域ごとの所得階層別の人口分布の将来予測を実施した。
- 本推計では、所得の分布の形状が対数正規分布に従うという仮定を置き、GDP予測を基に将来の分布を予測した。
- 具体的には以下の3ステップで推計を実施した。

Step 1: データ収集

- 各種統計より、各国別の世帯所得の平均値・中央値のデータを取得。
- 所得が対数正規分布に従うことを想定し、平均値と中央値からパラメータ(平均パラメータ・分散パラメータ)を推定。

Step 2: 所得分布の推定

- 得られたパラメータをもとに所得の分布を推定。
- 現在(2020年)と、2030年・2035年・2040年の分布を推定。
- 将来の所得分布は、GDP将来予測(実質)をもとに、現在と分布の形状自体は変化しないと仮定し推定(格差は拡大せず定数倍で変化と仮定)

Step 3: 階層別人口の推定

- 得られた分布と、将来の人口推計をもとに、所得階層別の人数を推定。
- なお、本推計では、世帯所得の分布をもとに、人口を掛け合わせることで、各階層別の人数を算定している。したがって推計された所得階層別の人数は、正確には「当該所得の世帯に属する人口」である点に留意が必要である。

使用したデータ

- 推計に使用したデータのソースは以下の通り。一部の推計対象国については、OECDのデータベースから必要なデータの取得が困難であったことから、異なるデータベースや推計により必要なデータを整理した。
- なお、いずれも米国ドル(USD)の値を取得し、為替の換算は行っていない。

OECDのデータが利用可能な国

	出典
人口(現在・将来推計値)	World Population Prospects
所得の平均値・中央値(現在)	OECD Income Distribution Database
GDP(現在・将来推計値)	OECD Outlook

その他の国 (インドネシア、マレーシア、タイ、フィリピン、ベトナム、モロッコ、ナイジェリア)

	出典
人口(現在・将来推計値)	World Population Prospects
所得の平均値・中央値(現在)	World Population Review
GDP(現在・将来推計値)	1995-2023の実質GDP(IMF)のトレンドを使用して推計

推計結果(所得階層別の人口分布の将来予測の概要)

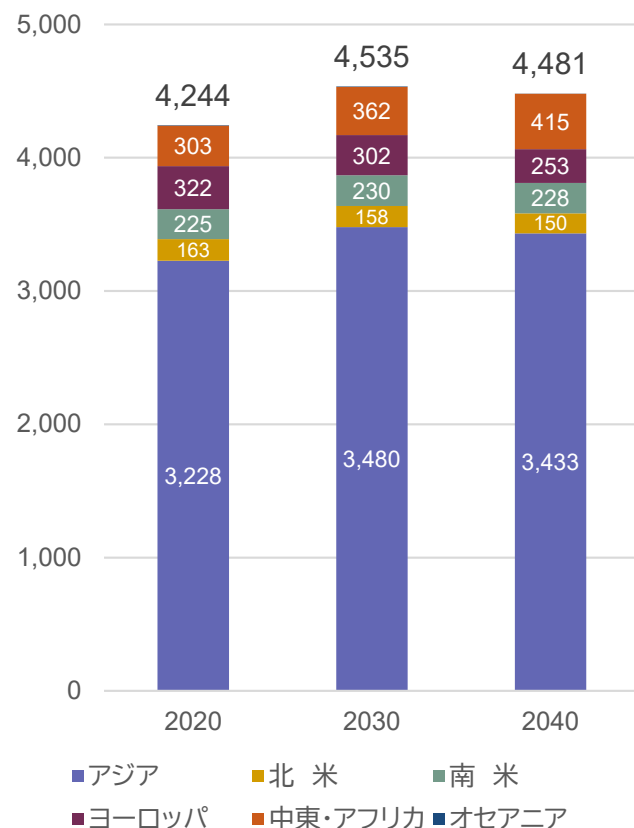
■OECD等で人口等データが取得できた42か国(注)について推計。

■所得階層2万ドルから6万ドルの所得階層別人口は、2020年と2040年の比較で、全体約1.4倍、アジア約2.6倍に拡大。

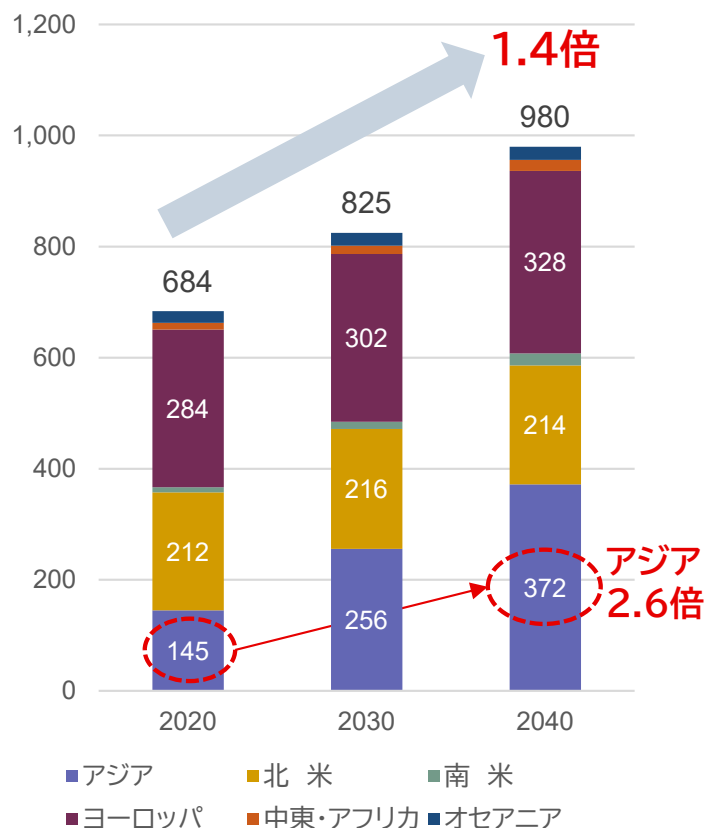
■所得階層6万ドル以上の所得階層別人口は、2020年と2040年の比較で、全体約1.7倍に拡大。大半を欧米が占める。

所得階層人口推計結果(42か国推計)(百万人)

2万ドル未満の人口



2～6万ドル未満の所得階層人口



6万ドル以上の所得階層人口

